

平成二十八年八月二十八日(日) 午後一時始(正午開場)

大濠公園能楽堂

解説 《仕舞・舞囃子・狂言について》

仕舞(観世流)

井筒 業平の妻 木月 晶子

地久島 法子  
菊本 澄代  
今村 宮子  
菊本 美貴

仕舞(観世流)

船橋 男の亡霊 森本 哲郎

武富 昭  
山口 剛一郎  
久保 誠一郎  
今村 嘉太郎

舞囃子(宝生流)

女郎花 小野頼風 久貫 弘能

大鼓 三王 清彦  
小鼓 横山 幸彦  
笛 相原 一彦

田中 としえ  
田村 晴恭  
山岡 美子  
三澤 栄子

狂言(大蔵流)

因幡堂 男川 邊宏 貴

女篠原 太一  
後見 洪田 昭典

〈休憩 二十分〉

舞囃子(観世流)

砧 蘆屋某の妻 多久島 利之

大鼓 三王 清田 中達  
小鼓 飯田 清一 笛 相原 一彦

今村 一夫  
鷹尾 維教  
鷹尾 祥史  
鷹尾 章弘

仕舞(金春流)

籠太鼓 清次の妻 東軍 三

田中 寿男  
櫻間 右陣  
北山 春彦

仕舞(喜多流)

班女 花子 狩野 琇鵬

塩山 良一  
角井 明弘  
笠井 陸雄  
粟谷 幸雄  
渡邊 康喜  
末武 有二

解説 《能 蘆刈について》

能(観世流)

蘆

左衛門ノ妻 久保 誠一郎

左衛門 山口 剛一郎

刈

妻ノ従者 御厨 誠吾

供人 坂苗 融

供人 坂苗 功

里人 野村 万禄

大鼓 白坂 保行  
小鼓 幸正 佳  
笛 出雲 敏弘

後見 鷹尾 章弘  
坂口 信男

井内 政徳 森本 哲郎  
今村 嘉太郎 今村 嘉伸  
武富 昭 鷹尾 維教  
今村 一夫 鷹尾 維教

仕舞

一曲の舞所を、囃子を加えず、装束も着けずに紋付袴で舞うこと。

舞囃子

一曲の主要な部分を紋付袴で、謡と囃子によって舞うこと。作り物は用いず、太刀、笠、鏡などの小道具は、すべて扇でそれに換えますが、杖、長刀は用います。

◆あらすじ

仕舞 井筒

在原業平の妻の霊が、亡き夫との思い出を語る。

仕舞 船橋

昔、恋人の為に通った船橋より川に落ち、亡くなった男の霊がその様を再現する。

舞囃子 女郎花

小野頼風の霊が激しい恋の妄執を語り、死後自分が落ちた地獄の責めを見せる。

狂言 因幡堂

夫は大酒飲みの妻の里帰りを機に、離縁状を届ける。そして、新妻をもらおうと因幡堂に願いを込め、籠っている。これを知った妻は、うたた寝の夫に西門に立っている女を新しい妻にするよう言い聞かせます。目を覚ました夫は喜んで西門、向かいますが、そこに待っていたのは…!

舞囃子 砧

蘆屋何某の妻の霊が、やつれ果てた姿で現れ、恋と恨みの半ばする、やるせなさを夫に訴え、責めるが読経の功德で成仏する。

仕舞 籠太鼓

牢を破って逃げた清次の身代わりに捕らわれた妻は、狂乱の態をよそおい、時を打つ鼓にうち興ずる。

仕舞 班女

遊女・花子は、恋人の形見の扇を胸に抱いて再会を夢み、うつない舞を舞う。

能 蘆刈

左衛門の妻は、乳母として大家に奉公していたが、久しぶりに故郷の難波に従者と供に訪れる。夫の在所を尋ねると、行方知れずになつていと聞かす。そこへ蘆売りの男が来て、おもしろく歌いながら蘆を売り、笠を持ち、舞を見せたりする。呼び寄せてみると、蘆売りは夫であった。夫は驚き、身を恥じて小屋に逃げ込む。女は、言葉優しく連れ出し、新しい装束に着替えさせる。夫は喜び、夫婦の情を歌った舞を舞い、夫婦連れ立って都へ行く。